

与謝野晶子と裏磐梯



晶子が泊まった場所から見た裏磐梯



晶子の住い跡「南荻窪中央公園」東京都杉並区

湖沼こせうども柳葉翡翠やなぎばひ すめりんだう竜胆のいろ鴨つぎ踏くさの青を
ひろぐる
醜みにくくて痣あざかと思ゆる沼のあり他の百の沼勝れ
たるため
五色沼いくつの色をしか呼べど数を知れるも
あらぬ沼かな

与謝野晶子(あきこ)は、会津へ2度来ています。1回目は、明治44年8月東山温泉の新瀧楼(新瀧)に来ました。2回目は与謝野鉄幹の一周忌にあたる昭和11年9月、文化学院学監をしていた時、学生で会津若松市の森芳介と愛子兄妹の招きにより来ています。6泊7日の旅でした。9月4日に猪苗代長浜の鳥万ホテルに宿泊、5日に裏磐梯に入り9首歌を詠みました。裏磐梯高原ホテル前進の別荘です。別荘は若松の宮森太左衛門・遠藤十次郎(新横町の滝口太右衛門の12男で醤油屋)のものでした。6日には猪苗代から東山温泉の向瀧に入ります。7日には鶴ヶ城や御薬園に行きました。同日、会津女子高等学校(現葵高校)で講演。その日は、若松市片柳町(会津若松市柳原町二丁目)の森家に宿泊。10日に帰京しました。

昭和15年には、晶子を招いた森芳介と晶子の6女藤子が結婚。

晶子は、昭和17年5月29日に死去しました。

昭和17年の遺稿集「白桜集」に会津詠草として裏磐梯の歌が収められています。

与謝野晶子と鉄幹の住まい跡は、東京都杉並区南荻窪4丁目の「南荻窪中央公園」です。杉並区と北塩原村は、保養地協定を結び、交流をしています。

裏磐梯高原ホテルには、昭和31年に建てられた中山義秀の石碑があります。義秀は、明治33年(1900)福島県白河市大信で生まれています。第7回芥川賞を受賞。義秀が19歳の早稲田大学在学中、裏磐梯を訪ね「裏磐梯」と題した回想録が発表されています。平成19年(2007)には第13回中山義秀文学賞を「天地人」の火坂雅志が受賞しています。

昭和36年10月、井上靖は小説「小磐梯」を発表しています。(文責 石田明夫)